

公民館報 津久井

ほとり

第50号

令和3年
4月1日発行

発行：津久井中央公民館
 編集：津久井中央公民館報ボランティア
 <世帯と人口>
 世帯：11,453 世帯 人口：24,722 人
 男：12,468 人 女：12,254 人
 (令和3年3月1日現在の住民基本台帳に基づく数値)

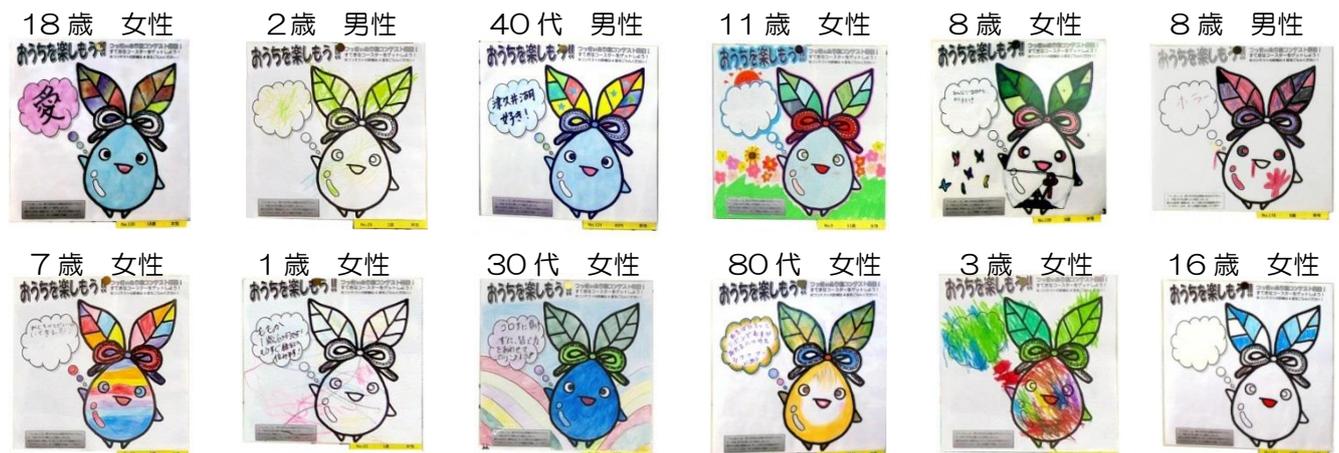


昨年7月から、おうち時間を楽しむために始めた「つっきいぬり絵コンテスト」は、1歳から90歳代までの方々から実に188点もの応募をいただきました。

応募作品は、来館者による人気投票を行い、3月に入賞作品を発表する予定でしたが、コロナ禍による緊急事態宣言の影響で休館となったため、4月に延期いたしました。入賞作品は、館内掲示、次号の館報及びホームページにて、お知らせいたします。



【応募作品の一部を紹介します！】



公民館報津久井「ほとり」は、津久井地区自治会長並びに組長、班長の皆様のご協力により配布しています。公民館区内の地域センター、出張所にも置いてありますのでご覧ください。

「ほとり」は創刊50号を迎えました!

『ほとり』名付け親!
こしま 来夢さん

今から13年前、“未永く地域の皆様に愛読してもらえるように”との願いを含め、創刊される館報の名前を津久井町内の小中学生から募集をしたところ、38通もの応募をいただきました。公民館運営協議会で協議した結果、当時

津久井中央小学校の2年生だった小島来夢さんが考えてくれた『ほとり』に決定しました。来夢さんは、今現在都内でお仕事をしながら、一人暮らしをされています。立派な青年に成長された来夢さんに、当時のことを聞いてみました!



「20歳になられた来夢さん」

★応募したきっかけは、なんだったのでしょうか?

「母が、新聞折り込みか何かで公民館報の名前を募集しているのを見て、やってみない?と誘ってくれました。」

★『ほとり』はどうやって思いついたのですか?

「当時はまだ小さかったので、最初は子どもっぽい単純な名前しか思いつきませんでした。そこで、兄が持っていた国語辞典をパラパラめくってみたんです。そしたら『ほとり』という文字が目にはいって。自分も湖のほとりに住んでいるので、ああ、この言葉いいなと思い、『ほとり』という名前で応募してみました。」

★名付け親に選ばれて、周りの反響はいかがでしたか?

「周りの友達は、まだ館報を読むほど大人ではなかったようで、僕が選ばれたことを知らない子が多かったです。でも、館報を読んだ周りの大人達からは、すごいねーすてきな名前だねと、とても褒めていただき、嬉しかったことを覚えています。」

★今後の館報『ほとり』に向け、メッセージをいただけますか?

「進学の関係で高校から津久井を離れ、館報も読む機会がないままです。今回、久しぶりにホームページから自分が名付けた館報を読ませていただきました。創刊当時から、



「受賞当時の来夢さん」

ずいぶん進化したなと感じます。これからも、まだまだ進化して、未永くこの地域で、『ほとり』の名を残していただけたらと思います。」お忙しい時間を割いて、ひとつひとつの質問にととても丁寧に答えてくださった来夢さん。すてきなメッセージをありがとうございました!



心をこめて
ありがとう



つっきいが初めて登場したのは、34号(平成29年4月1日)でした!

公民館キャラクター
つっきいの作者
きのした 美乃里さん



つっきいが誕生した当時、木下さんは美術系の高校を卒業し、その特技を活かして、いろいろなコンテストに応募をしていました。公民館でキャラクターを募集していると知った木下さんは、さっそく公民館にも応募してみようと思ったそうです。まずは、津久井の名産や特徴ってなんだろう?と考え、思いつく限りのものをイラストにし、そこから選び抜いたものが水のしずくと緑の葉、そして組紐でした。こうして誕生した“つっきい”は、今や公民館にはなくてはならない愛すべき存在になりました。「館報を読むたびに、いろいろな表情のつっきいが登場して、かわいくてうれしいです。」と話してくださいました。

ほとりロゴバック
写真撮影者
まつもと よしと
松本 良人さん



津久井生活が40年になる松本さん。カメラの趣味は富士山の撮影から始まり、2000年頃から地元のお祭りや風景を撮るようになりました。これまでコンテストでは数多く受賞をされています。現在のほとりロゴバックに使われている写真は、平成25年の17号(1月1日発行)から掲載されています。湖面の波紋は公民館を中心に輪が広がるように、人と人がつながっていきますようにとの思いが込められています。気軽に引き受けうけてくださいましたが、津久井湖周辺を3日歩き苦労された一枚だそうです。

創刊当時のほとり
ロゴイラスト
まつもと 智子さん

津久井在住の松井さんは、館報創刊号から携わってくださった編集委員のおひとりです。ほとりという館報名にふさわしい、津久井の木々の葉をイメージした題字や、水みどりあふれる津久井の風景を、そのままロゴのイラストにしてくださいました。このイラストは、平成20年7月の創刊号から4年近く、館報の表紙を飾り続けてくれました。

「創刊号『ほとり』ロゴイラスト」



『ほとり』は、お陰様で50号を迎えることができました。これもひとえにご愛読いただいている地域の皆様や、厚意のもとに編集にご協力いただいている公民館報ボランティアの皆様のおかげと、心よりお礼申し上げます。コロナ禍という長い闘いの中ではありますが、どうぞ引き続き「ほとり」のご愛顧・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
津久井中央公民館 館長 高井 登志子



公民館事業のお知らせ

4月～7月

津久井中央公民館事業

★ラジオ体操★

5月16日・6月20日・7月18日
午前9時～10時 いずれも日曜日

※5月～12月までの第3日曜日実施
※どなたでも参加できます！お気軽におこしください！

★大人の社会見学★

7月上旬 開催予定 ※見学地未定

※詳細は、今後の公民館チラシ及び地域情報誌、ホームページ等をご覧ください。

青根公民館事業

★手芸教室★

6月上旬 開催予定 ※内容未定

※詳細は、今後の公民館チラシ及びホームページ等をご覧ください。

※事業予定は、今後のコロナ状況により、内容の変更もしくは中止の可能性がありますので、ご注意ください。



STOP! コロナ差別

新型コロナウイルス感染症に関連した不当な差別や偏見をなくしましょう。

全館休館日	図書室のみ休室
ホール・図書室休室	ホールのみ休室

4月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

津久井中央公民館図書室より



4月 春のえほん フェア

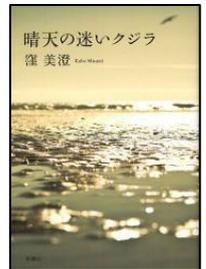
寒い冬をこえて春の陽気になるこの季節。気持ちも晴れやかになる春をテーマにした絵本を紹介しします。自然とのふれあい、新たな表情を見せる動物たちの絵本。入園、入学などの新一年生に贈る絵本。満開に咲き誇る桜をテーマにした絵本など集めました。



『14ひきのぴくにっく』
いわむら かずお さく <童心社 刊>

窪 美澄 フェア

1965年、東京都稲城市生まれ。フリーの編集ライターを経て、2009年「ミクマリ」で「女による女のためのR-18文学賞」大賞を受賞してデビュー。2011年『ふがいない僕は空を見た』で山本周五郎賞。2012年『晴天の迷いクジラ』で山田風太郎賞受賞。恋愛、家族などをテーマにした作品が多い。



『晴天の迷いクジラ』 窪 美澄 著 <新潮社 刊>

5月 母の日えほん・千早 茜 フェア

6月 雨のえほん・小路 幸也 フェア

7月 夏休み「これ読み隊」・山本 文緒 フェア

【休 室 日】月曜日、祝日の翌日、第2木曜日
【開室時間】◆火～金曜◆午前10時～午後7時
◇土日祝日◇午前10時～午後5時

編集後記

昨年度は、コロナ禍のため、今までの生活が一変してしまいました。公民館の行事も、その多くは中止せざるを得なくなり、先の計画も立てづらい状況になっていいますが、他の施設、団体等も厳しい状況だと思われ
ます。
出来るだけ早い時期にコロナが終息し、普通の状態に戻ることを切に願うばかりです。
(工藤)

「お知らせ！」
今年度から、館報の発行が年4回から3回へと変更になります。次号は、8月1日、次々号は12月1日発行予定となりますので、今後も「ほとり」をよろしくお祈いします！

